

令和6年度中野区子どもと子育て家庭の実態調査

報告書【概要版】

(1) 調査対象	令和6年7月1日時点において0歳から14歳（中学3年生）にあたる就学前児童、小学生及び中学生の保護者 18,750 世帯。 小学4～6年生の児童及び中学1～3年生の生徒 7,500 人。
(2) 調査方法	郵送配布、郵送・インターネット回収
(3) 調査期間	令和6年9月5日（木）～9月26日（木）
(4) 回答数	保護者：7,775 件（41.5%）、子ども：1,821 件（24.3%）

調査対象詳細					親子マッチング 件数／対象数
	保護者		子ども		
	対象数	回収数（率）	対象数	回収数（率）	件数（率）
未就学児	7,500	3,615(48.2%)			
小学校低学年(小学生①)	3,750	1,661(44.3%)			
小学校高学年(小学生②)	3,750	1,249(33.3%)	3,750	910(24.3%)	865(23.1%)
中学生	3,750	1,250(33.3%)	3,750	911(24.3%)	877(23.4%)
合 計	18,750	7,775(41.5%)	7,500	1,821(24.3%)	

報告書の見方

- (1) 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって、合計が100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答形式の場合、回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 図表中の「n」とは、その設問への回答者数を表す。
- (4) 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いている。
- (5) クロス集計において、回答が0件（0.0%）の場合、グラフ中で省略している場合がある。
- (6) クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。また、分析軸となる項目の回答者数が少ない場合、グラフ化していない場合がある。
- (7) クロス分析において、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている。

令和7年2月
中野区

生活困難の分類方法

生活困難度は、①低所得、②家計の逼迫、③子どもの体験や所有物の欠如の3つの要素から分類し、2つ以上の要素にあてはまる場合（困窮層）、いずれか1つにあてはまる場合（周辺層）、いずれの要素にも該当しない場合（一般層）としている。

①低所得
厚生労働省「令和5年度国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯 世帯所得の中央値（405万円）÷ $\sqrt{\text{平均世帯人数（2.23）}} \times 50\% = 135.6 \text{ 万円}$

②家計の逼迫	
経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1項目以上該当	
1 電話料金（携帯・スマートフォン含む）	5 家賃
2 電気料金	6 家族が必要とする食料を買えないこと
3 ガス料金	7 家族が必要とする衣類を買えないこと
4 水道料金	

③子どもの体験や所有物の欠如	
経済的な理由で、子どもの体験や所有物などに関する 16 項目のうち、3 項目以上欠如している	
1 海水浴に行く	9 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる
2 博物館・科学館・美術館などに行く	10 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）
3 山や川など自然豊かな場所に行く	11 お誕生日のお祝いをする
4 キャンプやバーベキューに行く	12 1 年に 1 回くらい家族旅行に行く
5 スポーツ観戦や劇場に行く	13 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる
6 遊園地やテーマパークに行く	14 子どもの年齢に合った本
7 毎月お小遣いを渡す	15 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
8 毎年新しい洋服・靴を買う	16 子どもが自宅で宿題をすることができる場所

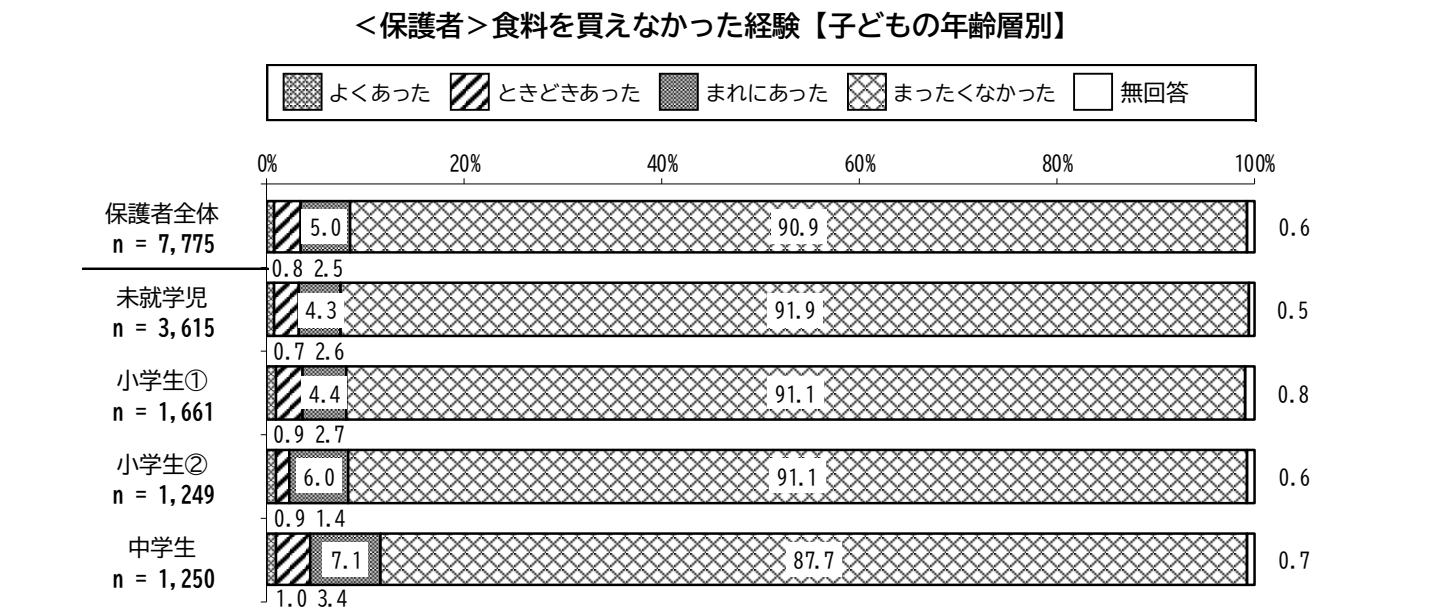
		未就学児 保護者	小学生① 保護者	小学生②		中学生	
				保護者	子ども	保護者	子ども
生活困難層※		11.2%	10.9%	11.4%	11.2%	14.3%	14.4%
	困窮層	3.2%	3.4%	2.5%	2.8%	5.5%	5.8%
	周辺層	8.0%	7.4%	8.9%	8.4%	8.8%	8.6%
一般層		88.8%	89.1%	88.6%	88.8%	85.7%	85.6%

※ 生活困難層の割合は「困窮層」と「周辺層」の人数を加算後、算出したため、構成比の合計とは一致しない場合がある。

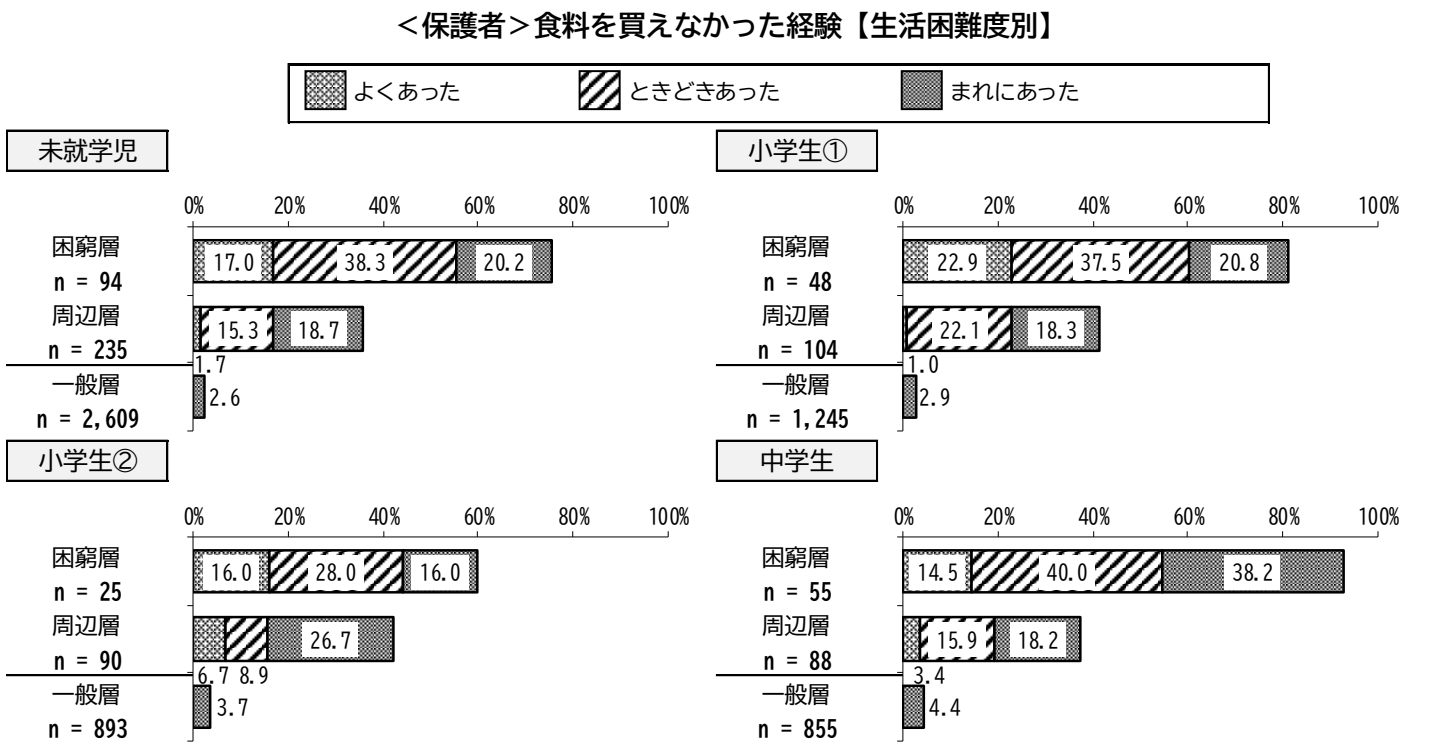
1. 生活困窮の状況

(1) 食料を買えなかった経験

保護者全体では「まったくなかった」が90.9%となっている。一方、「よくあった」が0.8%、「ときどきあった」が2.5%、「まれにあった」が5.0%となっている。



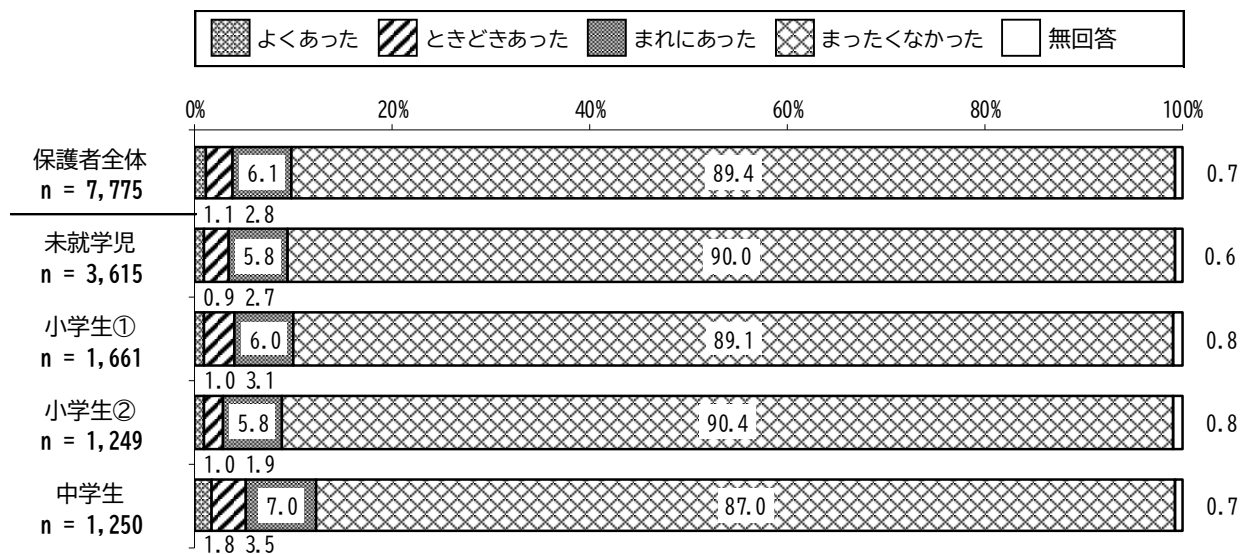
「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の回答を〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」及び「まれにあった」を合計した割合は、すべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔中学生〕の【困窮層】が92.7%と、【周辺層】(37.5%)よりも55.2ポイント高くなっている。



(2) 衣類を買えなかった経験

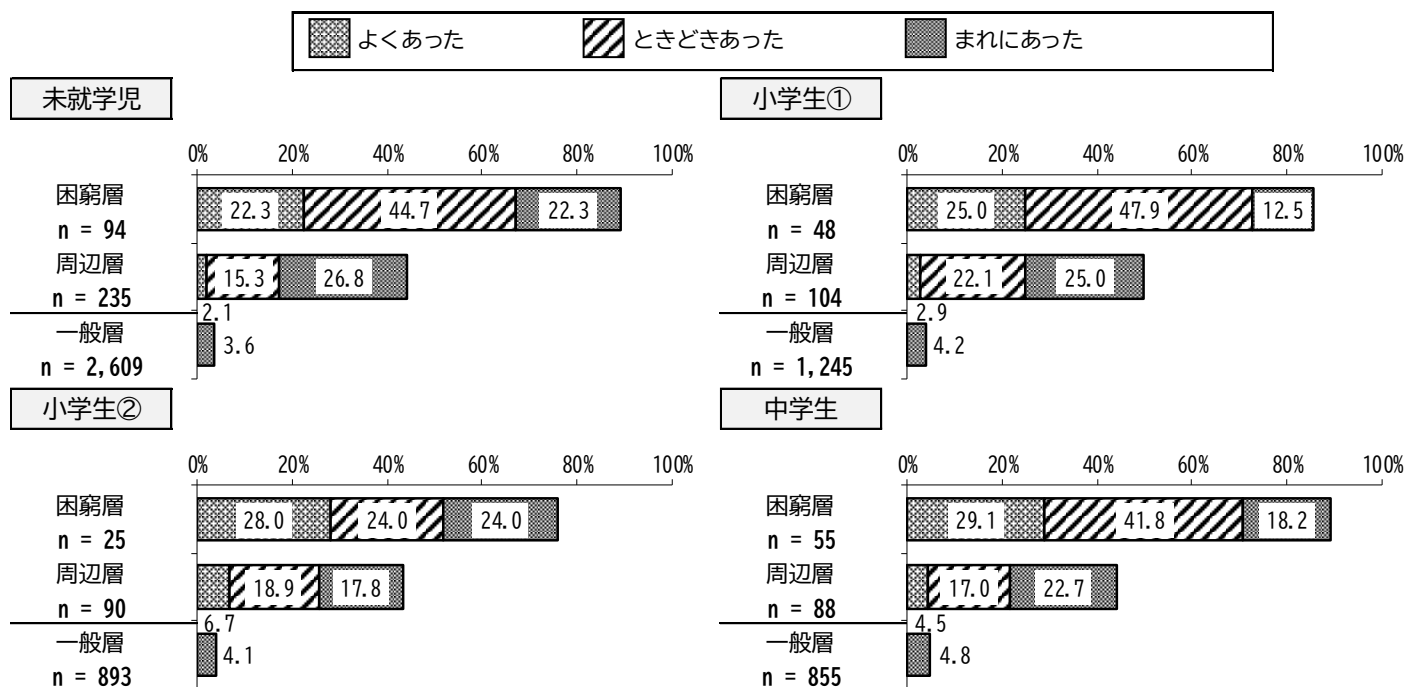
保護者全体では「まったくなかった」が89.4%となっている。一方、「よくあった」が1.1%、「ときどきあった」が2.8%、「まれにあった」が6.1%となっている。

<保護者>衣類を買えなかった経験【子どもの年齢層別】



「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の回答を〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」及び「まれにあった」を合計した割合は、すべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔未就学児〕の【困窮層】が89.3%と、【周辺層】(44.2%)よりも45.1ポイント、〔中学生〕の【困窮層】が89.1%と、【周辺層】(44.2%)よりも44.9ポイント高くなっている。

<保護者>衣類を買えなかった経験【生活困難度別】



(3) 所有物の欠如

項目ごとに「ある」「ない（ほしい）」「ない（ほしくない）」をたずねた。回答から「欲しいが、持っていない」割合を算出（＝「ない（ほしい）」人数／（「ある」人数＋「ない（ほしい）」人数）×100）した。

※例）小学生の〔A 自分だけの本〕は、「ない（ほしい）」55人／（「ある」746人＋「ない（ほしい）」55人）×100＝6.9％となる。

〔小学生〕では〔O 携帯音楽プレーヤーなど〕が57.8％で最も高く、次いで〔B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくみます）〕が36.0％、〔N 携帯電話、スマートフォン〕が28.3％、〔C（自宅で）インターネットにつながるパソコン〕が26.1％、〔F 自分専用の勉強机〕が24.5％と続いている。

生活困難度別にみると、すべての項目で【困窮層】が【周辺層】、【一般層】に比べ、高くなっている。特に、〔B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくみます）〕は【困窮層】が82.4％、〔I たいていの友だちが持っているおもちゃ〕は【困窮層】が42.9％と他の区分に比べ、高くなっている。

〔中学生〕では〔O 携帯音楽プレーヤーなど〕が28.3％で最も高く、次いで〔B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくみます）〕が24.5％、〔C（自宅で）インターネットにつながるパソコン〕が19.2％、〔F 自分専用の勉強机〕が12.1％と続いている。

生活困難度別にみると、〔O 携帯音楽プレーヤーなど〕は【困窮層】が50.0％、【周辺層】が41.7％と【一般層】（27.5％）に比べ、高くなっている。〔C（自宅で）インターネットにつながるパソコン〕は【困窮層】が35.5％と他の区分に比べ、高くなっている。

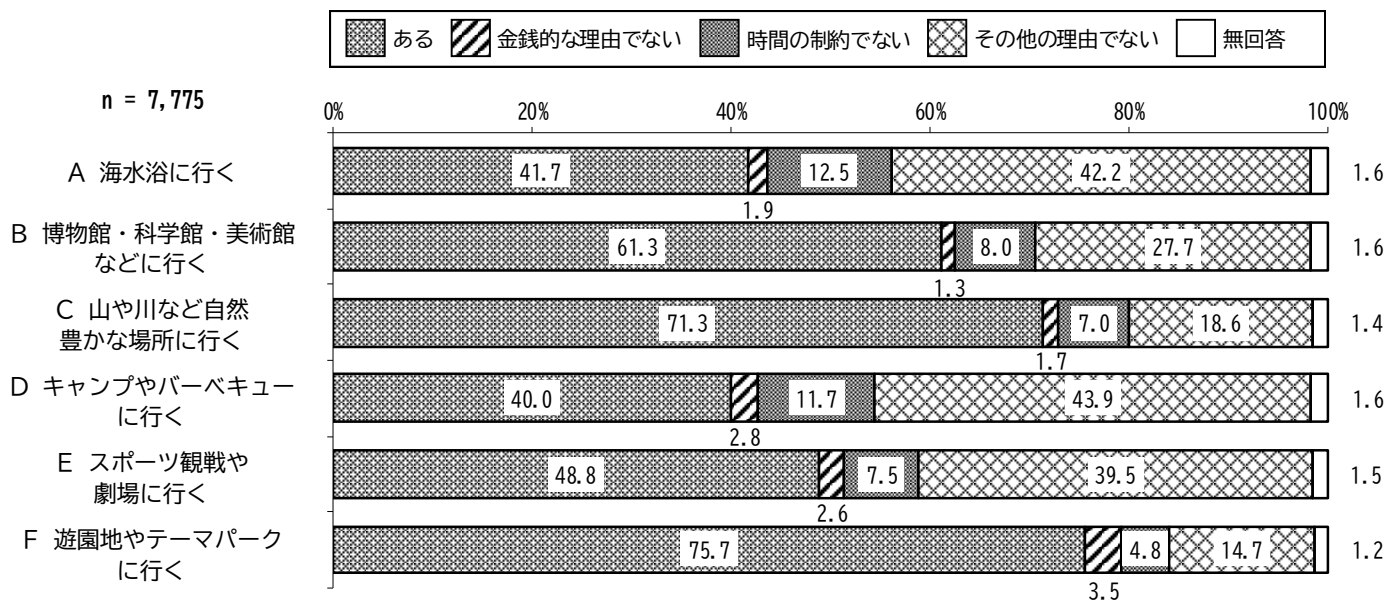
<子ども>子どもの所有物の欠如（「欲しいが、持っていない」割合）【生活困難度別】

区分 n	小学生				中学生			
	全体 (910)	困窮層 (19)	周辺層 (58)	一般層 (610)	全体 (911)	困窮層 (40)	周辺層 (59)	一般層 (587)
A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）	6.9%	23.1%	8.9%	6.4%	4.4%	12.1%	5.8%	4.0%
B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくみます）	36.0%	82.4%	61.5%	31.1%	24.5%	39.4%	33.9%	22.9%
C（自宅で）インターネットにつながるパソコン	26.1%	53.8%	32.6%	25.7%	19.2%	35.5%	23.5%	16.7%
D（自宅で）インターネットにつなげる環境（有線、無線(Wi-Fiなどをふくむ)）	3.5%	23.5%	3.5%	2.7%	2.0%	2.6%	3.4%	1.7%
E 自宅で宿題をすることができる場所	4.2%	26.3%	16.7%	2.2%	4.3%	10.5%	5.3%	3.6%
F 自分専用の勉強机	24.5%	47.1%	42.9%	22.8%	12.1%	24.3%	17.9%	11.3%
G スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）	4.6%	26.7%	7.5%	3.6%	3.8%	18.5%	4.5%	2.2%
H ゲーム機	9.8%	25.0%	16.4%	9.1%	9.0%	13.9%	16.4%	7.6%
I たいていの友だちが持っているおもちゃ	10.7%	42.9%	8.9%	9.5%	7.2%	23.1%	11.9%	5.8%
J 自転車	3.6%	23.5%	9.4%	2.9%	5.7%	15.8%	10.0%	4.6%
K おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい	11.3%	38.9%	30.2%	9.9%	7.2%	21.6%	7.0%	5.5%
L 友だちが着ているのと同じような服	6.7%	27.3%	10.5%	6.1%	6.9%	7.4%	12.8%	6.2%
M 2足以上のサイズのあった靴	4.9%	33.3%	9.8%	3.2%	4.4%	13.9%	9.1%	3.6%
N 携帯電話、スマートフォン	28.3%	41.2%	26.8%	27.1%	5.2%	10.3%	8.6%	4.3%
O 携帯音楽プレーヤーなど	57.8%	78.6%	53.6%	56.7%	28.3%	50.0%	41.7%	27.5%

(4) 子どもの体験への支出

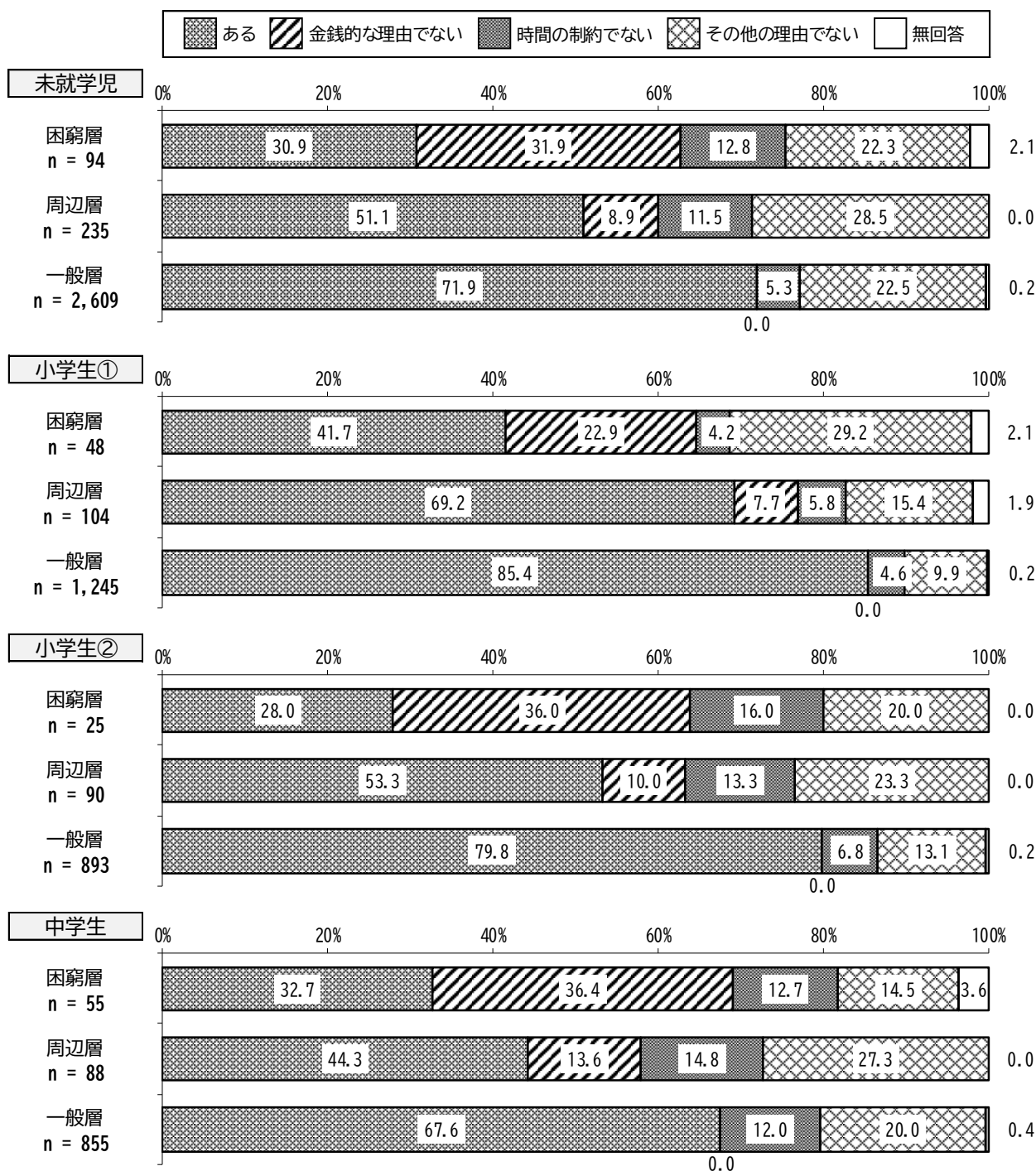
全体で「ある」は、[F 遊園地やテーマパークに行く] が75.7%で最も高く、次いで[C 山や川など自然豊かな場所に行く] が71.3%、[B 博物館・科学館・美術館などに行く] が61.3%となっている。一方、「金銭的な理由でない」は、[F 遊園地やテーマパークに行く] が3.5%、[D キャンプやバーベキューに行く] が2.8%、[E スポーツ観戦や劇場に行く] が2.6%となっている。

<保護者全体>子どもの体験への支出



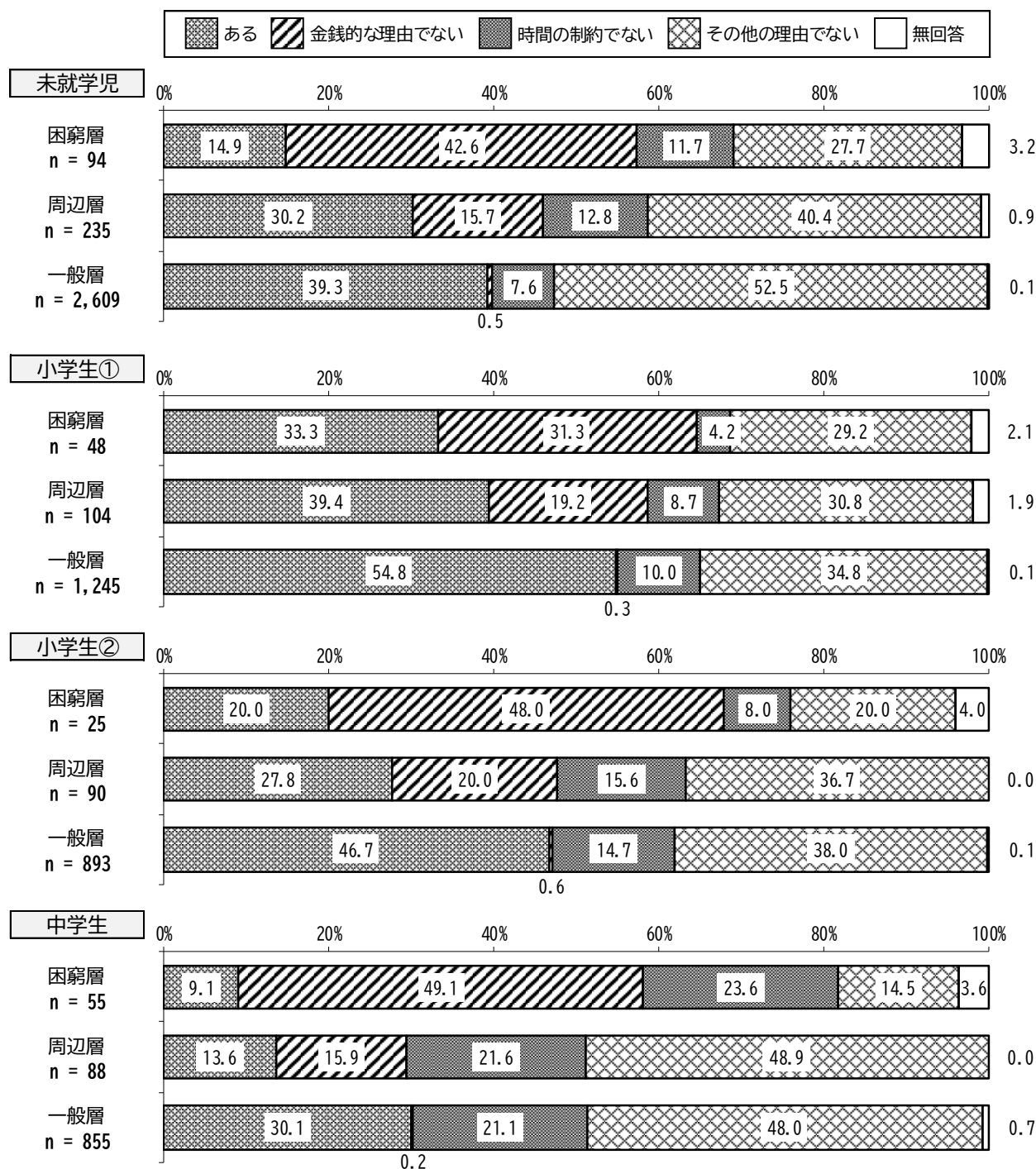
〔山や川など自然豊かな場所に行く〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「金銭的な理由でない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔小学生②〕の【困窮層】が36.0%と、【周辺層】（10.0%）よりも26.0ポイント高くなっている。

＜保護者＞子どもの体験への支出〔山や川など自然豊かな場所に行く〕【生活困難度別】



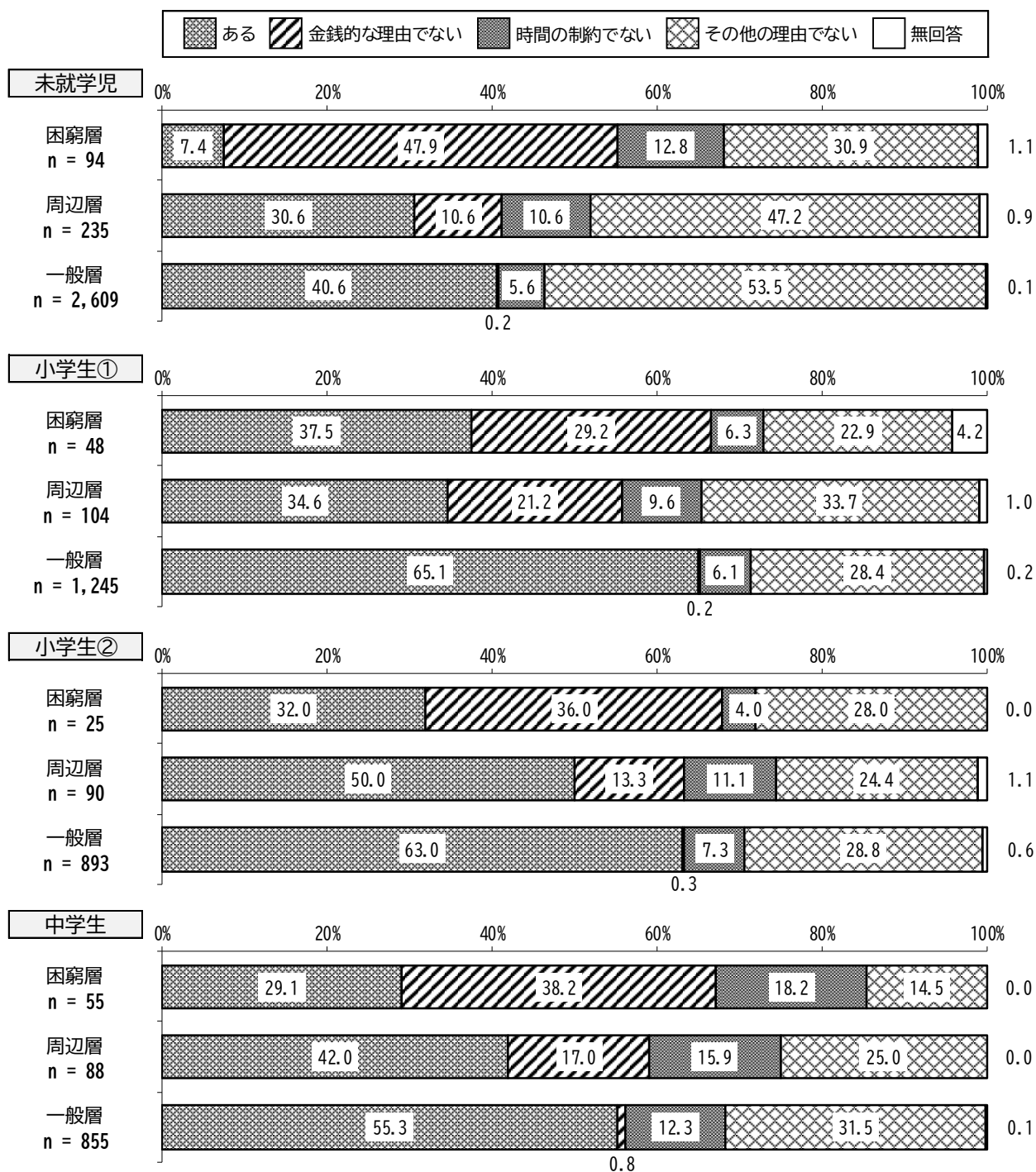
〔キャンプやバーベキューに行く〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「金銭的な理由でない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔中学生〕の【困窮層】が49.1%と、【周辺層】（15.9%）よりも33.2ポイント高くなっている。

<保護者>子どもの体験への支出〔キャンプやバーベキューに行く〕【生活困難度別】



〔スポーツ観戦や劇場に行く〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「金銭的な理由でない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔未就学児〕の【困窮層】が47.9%と、【周辺層】（10.6%）よりも37.3ポイント高くなっている。

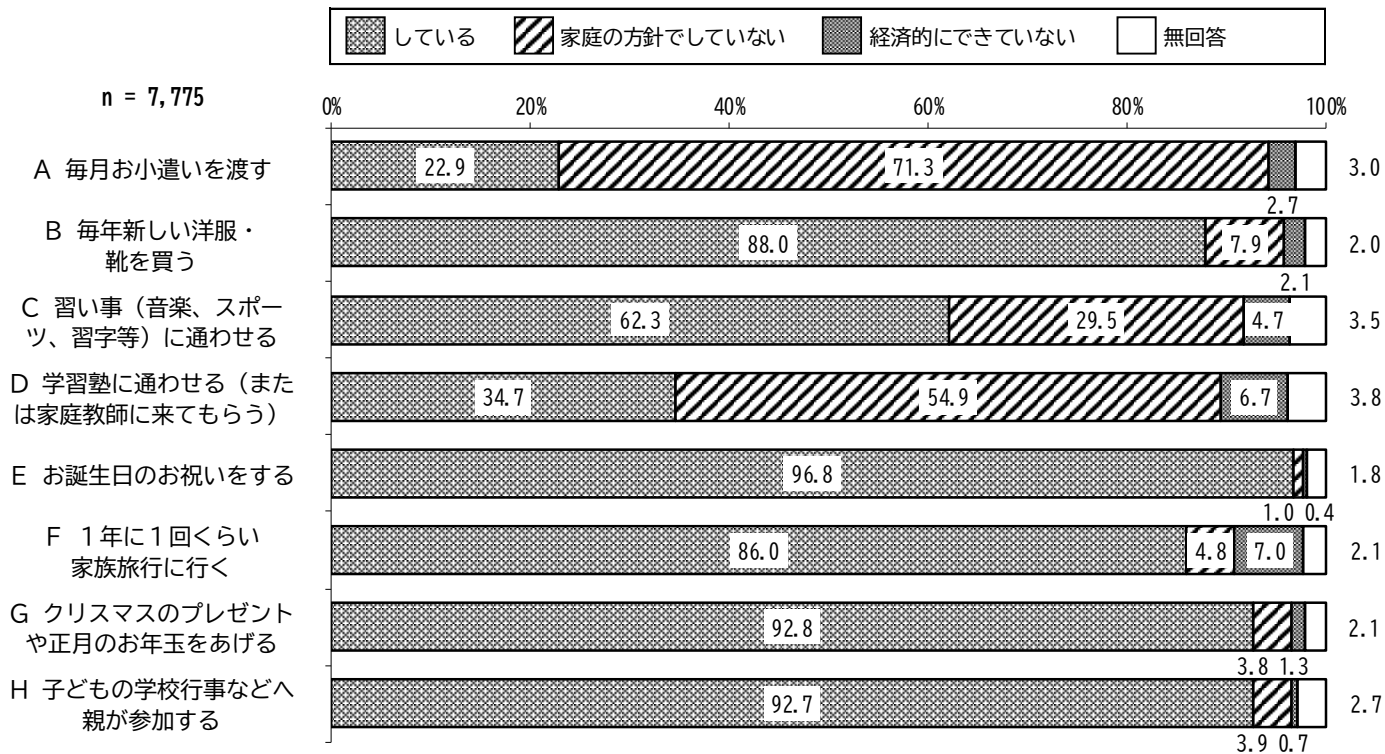
＜保護者＞子どもの体験への支出〔スポーツ観戦や劇場に行く〕【生活困難度別】



(5) 子どもへの支出

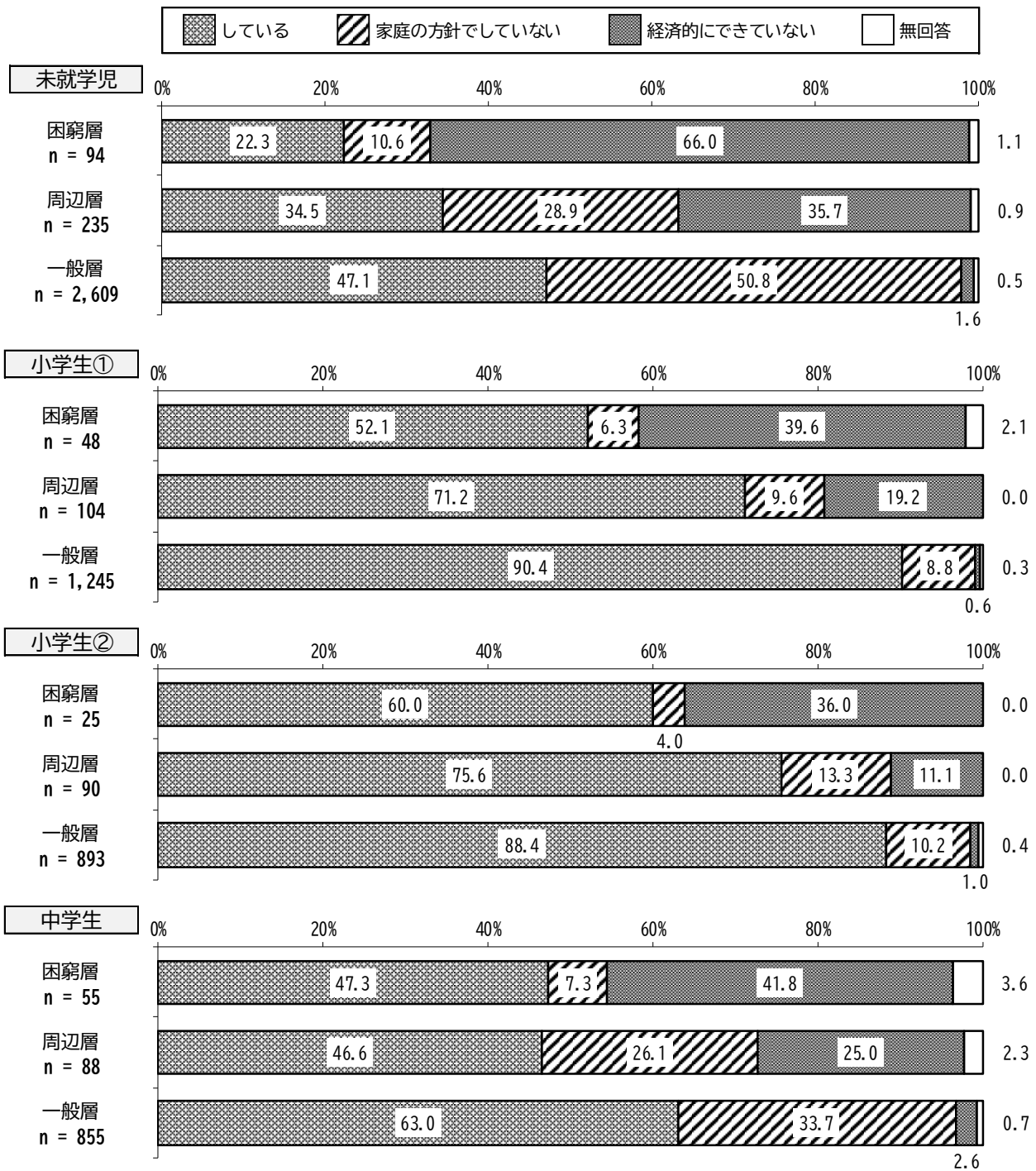
全体で「している」は、[E お誕生日のお祝いをする] が96.8%で最も高く、次いで[G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる] が92.8%、[H 子どもの学校行事などへ親が参加する] が92.7%となっている。一方、「経済的にできていない」は、[F 1年に1回くらい家族旅行に行く] が7.0%、[D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）] が6.7%となっている。

<保護者全体>子どもへの支出



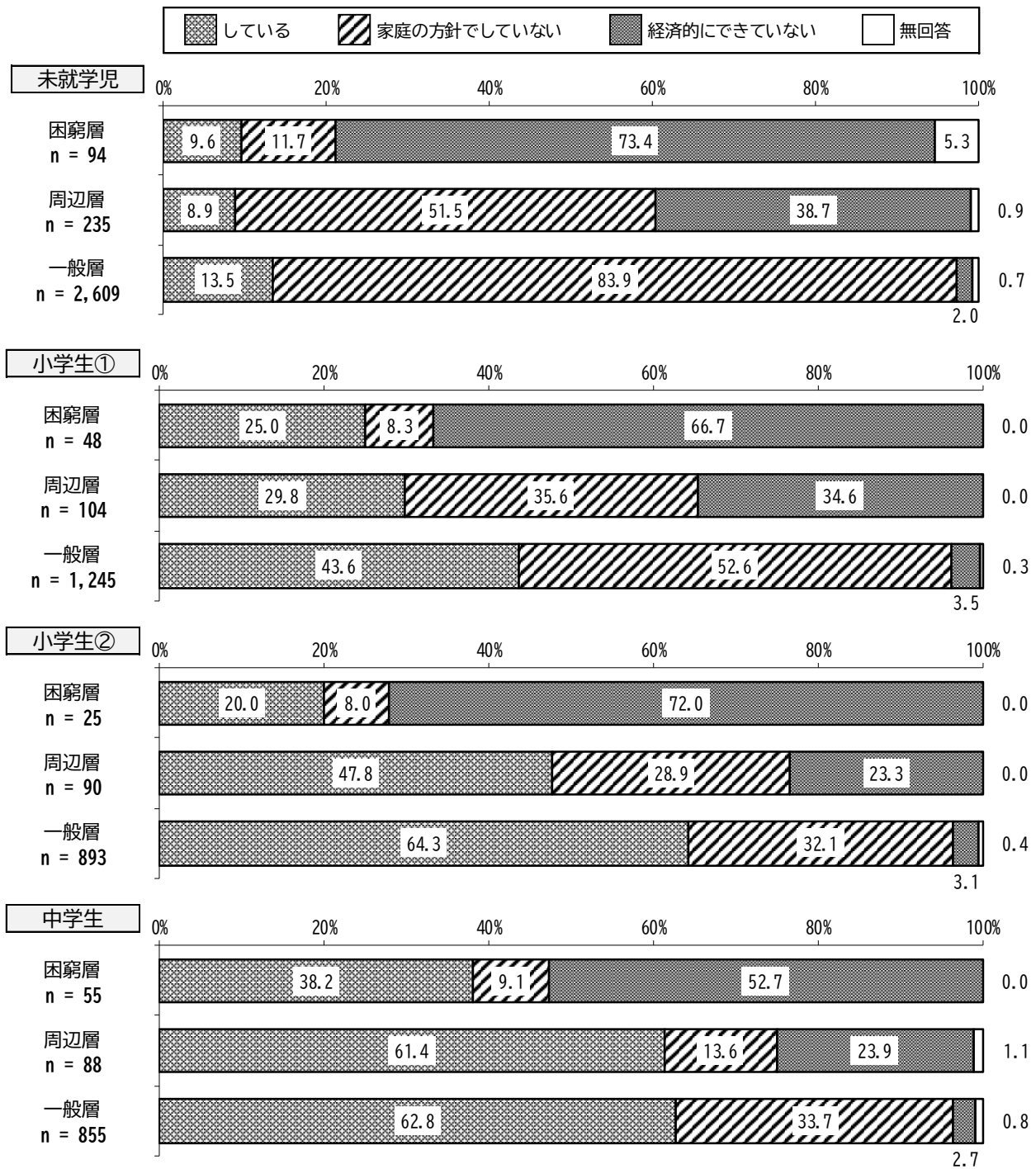
〔習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「経済的にできていない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔未就学児〕の【困窮層】が66.0%と、【周辺層】（35.7%）よりも30.3ポイント高くなっている。

＜保護者＞子どもへの支出〔習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる〕【生活困難度別】



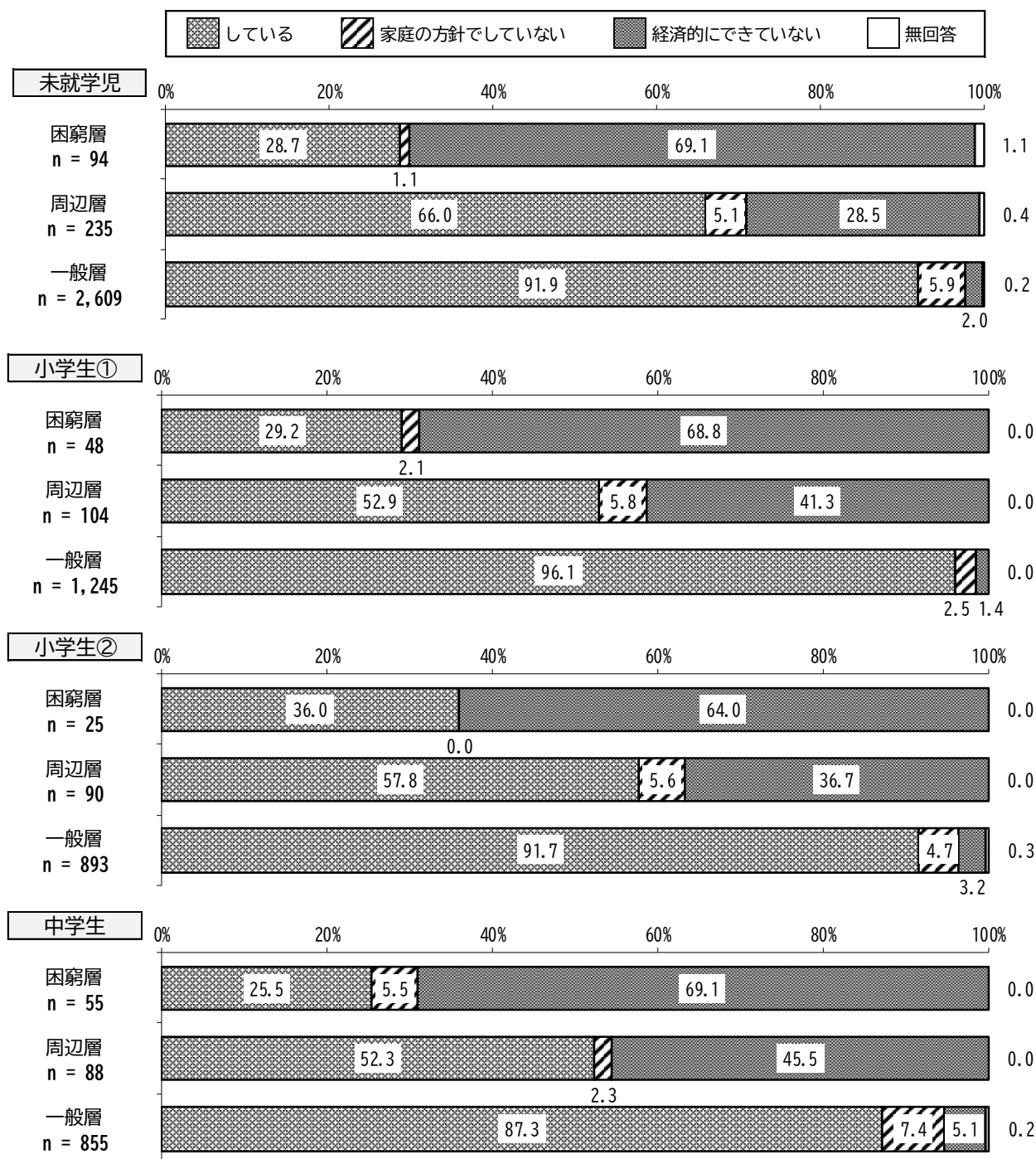
〔学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「経済的にできていない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔小学生②〕の【困窮層】が72.0%と、【周辺層】（23.3%）よりも48.7ポイント高くなっている。

＜保護者＞子どもへの支出〔学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）〕【生活困難度別】



〔1年に1回くらい家族旅行に行く〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「経済的にできていない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔未就学児〕の【困窮層】が69.1%と、【周辺層】（28.5%）よりも40.6ポイント高くなっている。

＜保護者＞子どもへの支出〔1年に1回くらい家族旅行に行く〕【生活困難度別】



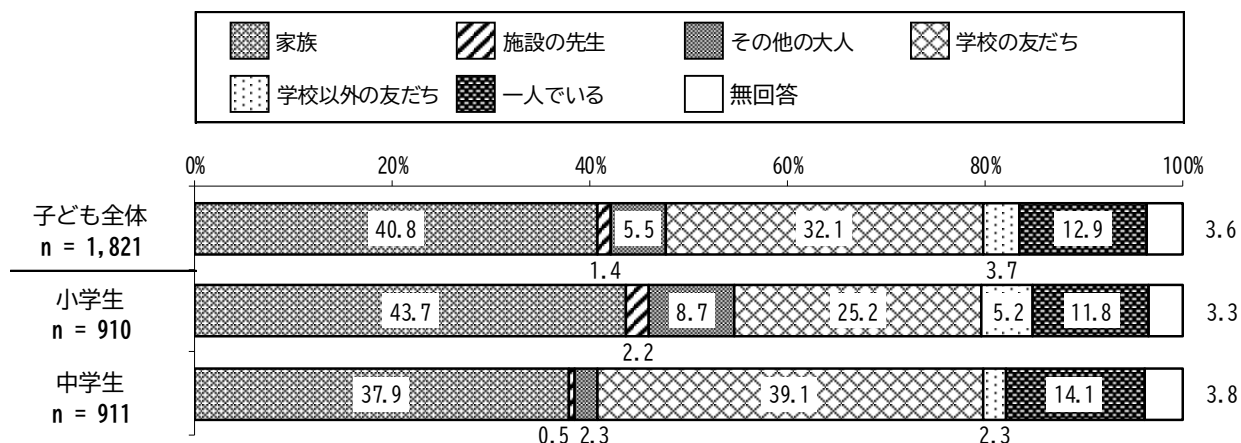
2. 児童・生徒の回答からみた子どもの状況について

(1) 平日の放課後・休日の午後に過ごす人

子ども全体では「家族」が40.8%で最も高く、次いで「学校の友だち」が32.1%となっている。

小学生、中学生別にみると、「学校の友だち」は【中学生】が39.1%と、【小学生】(25.2%)に比べ、13.9ポイント高くなっている。

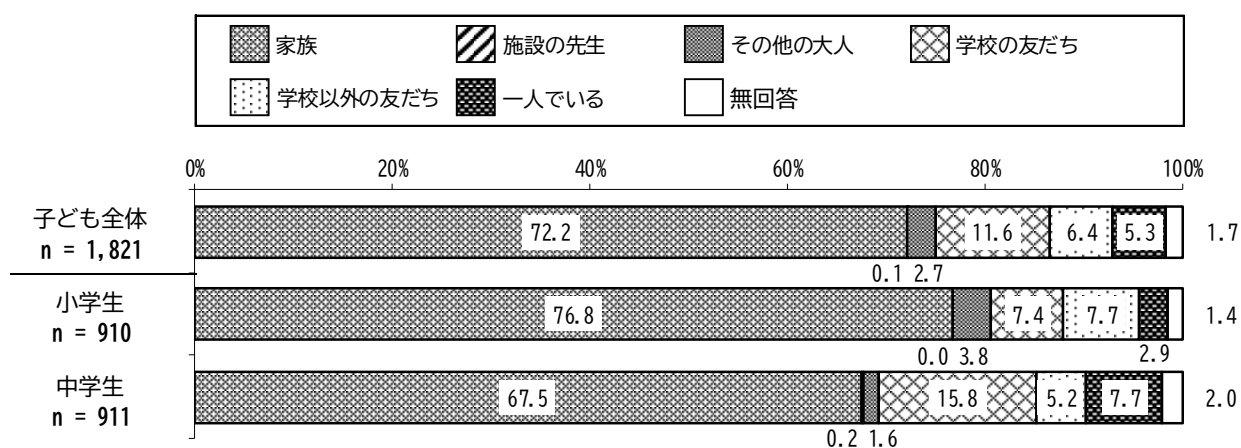
<子ども>平日の放課後に過ごす人



子ども全体では「家族」が72.2%で最も高くなっている。

小学生、中学生別にみると、「家族」は【小学生】が76.8%と、【中学生】(67.5%)に比べ、9.3ポイント高くなっている。

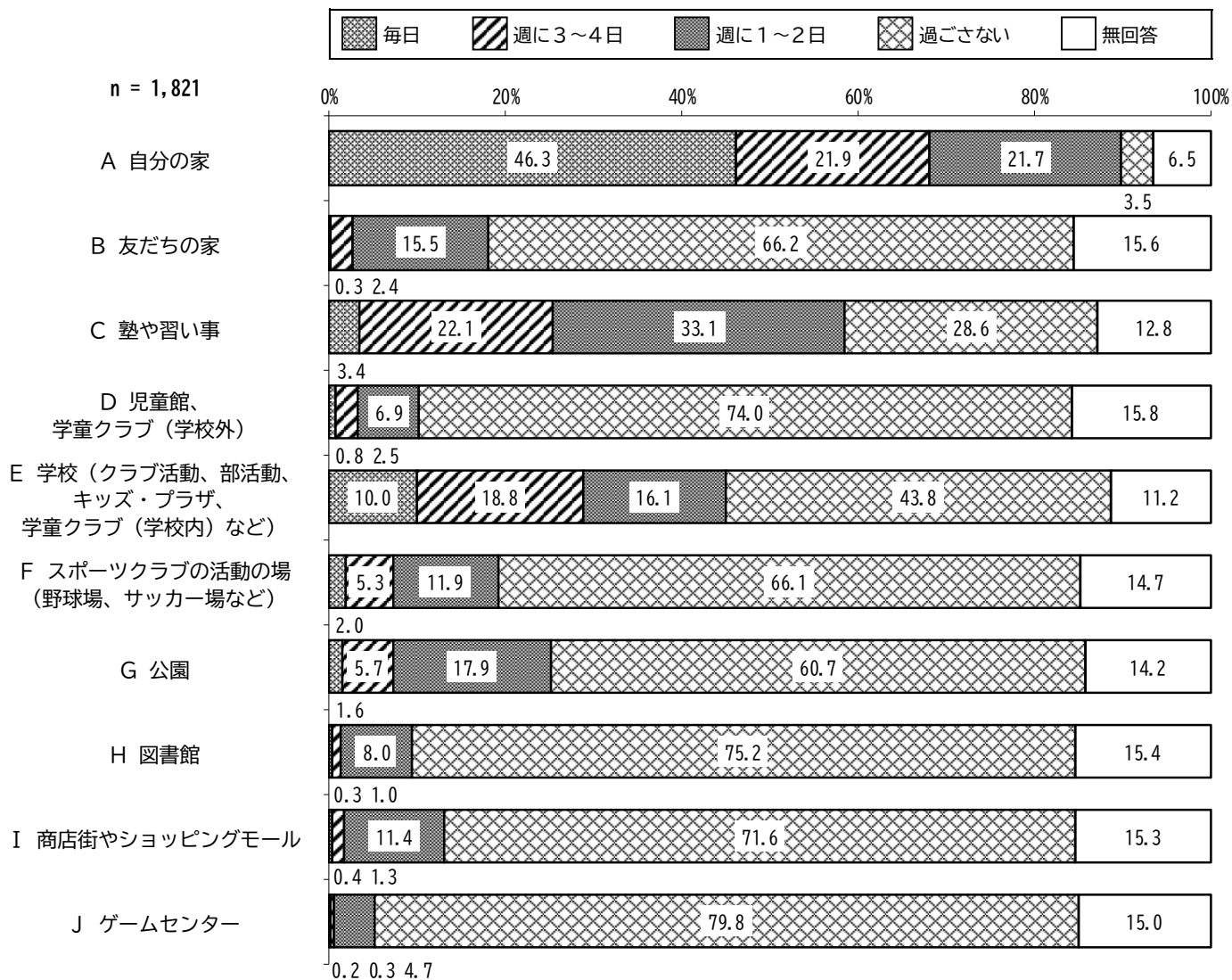
<子ども>休日の午後に過ごす人



(2) 平日の放課後に過ごす場所

子ども全体で「毎日」は〔A 自分の家〕が46.3%で最も高くなっている。「週に3～4日」は〔C 塾や習い事〕が22.1%で最も高く、次いで〔A 自分の家〕が21.9%、〔E 学校（クラブ活動、部活動、キッズ・プラザ、学童クラブ（学校内）など）〕が18.8%となっている。一方、「過ごさない」は〔J ゲームセンター〕が79.8%、〔H 図書館〕が75.2%、〔D 児童館、学童クラブ（学校外）〕が74.0%、〔I 商店街やショッピングモール〕が71.6%となっている。

<子ども全体>平日の放課後に過ごす場所

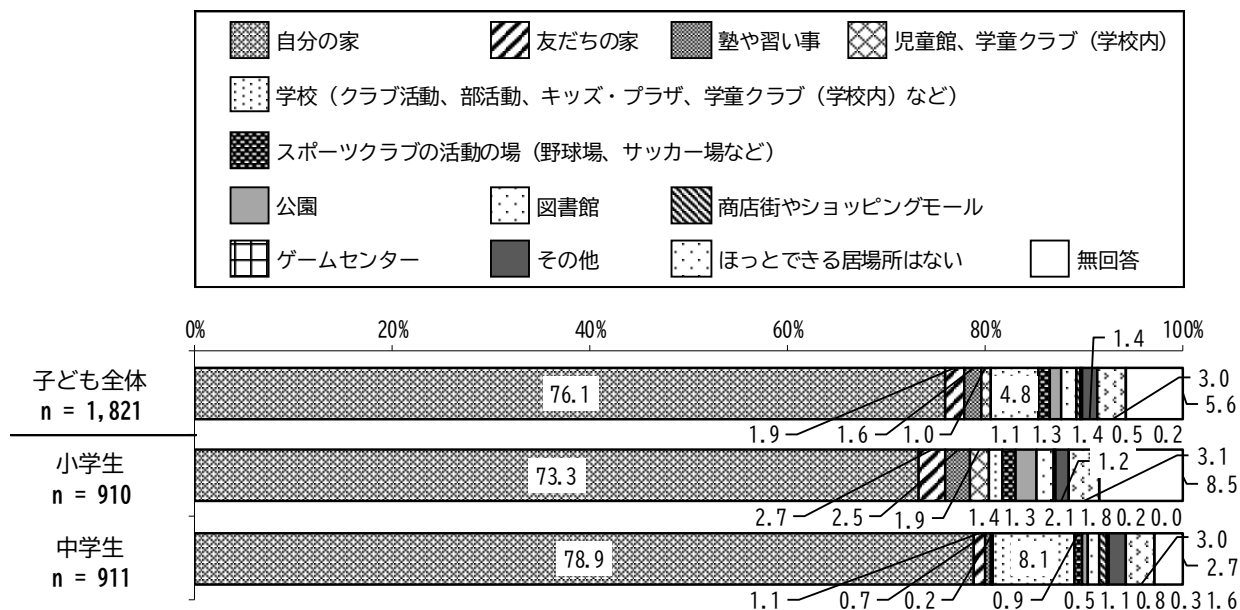


(3) 一番ほっとできる居場所

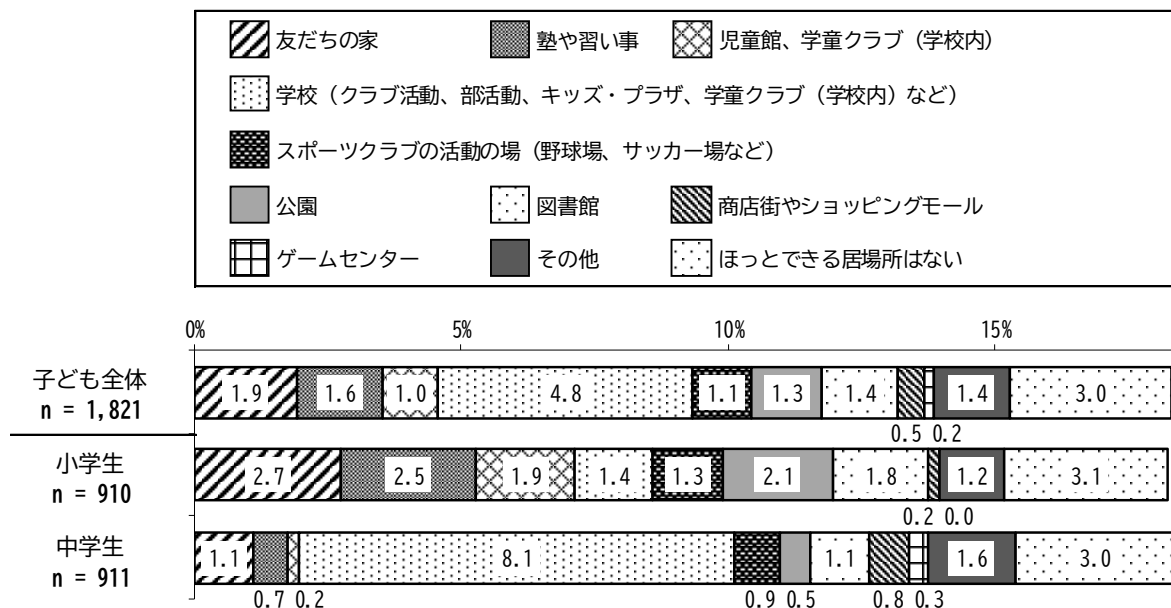
子ども全体では「自分の家」が76.1%となっている。

小学生、中学生別にみると、「学校（クラブ活動、部活動、キッズ・プラザ、学童クラブ（学校内）など）」は【中学生】が8.1%と、【小学生】（1.4%）に比べ、6.7ポイント高くなっている。

<子ども>一番ほっとできる居場所



<子ども>一番ほっとできる居場所（「自分の家」を除く）

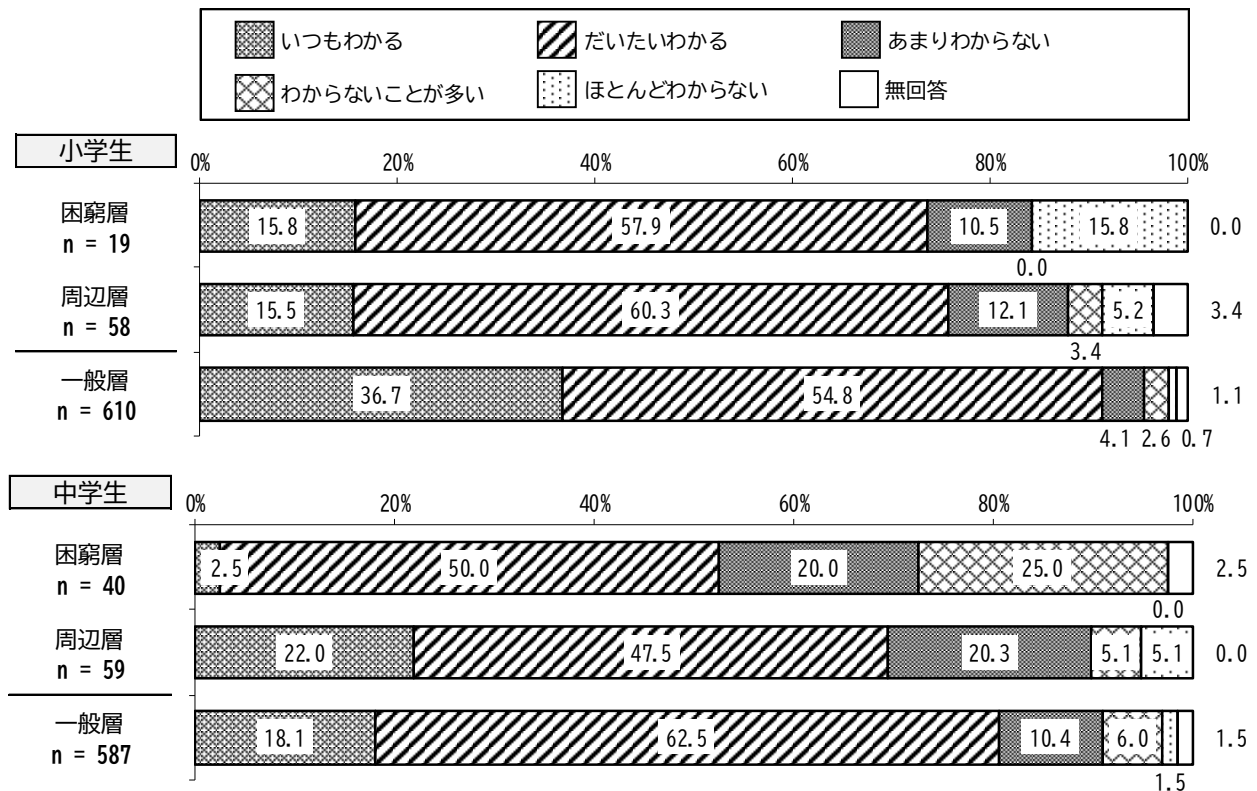


(4) 授業の理解度

※「いつもわかる」と「だいたいわかる」を合わせた値を『わかる』、「ほとんどわからない」と「わからないことが多い」と「あまりわからない」を合わせた値を『わからない』と表記する。

生活困難度別にみると、『わからない』の割合は小学生・中学生ともに【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔中学生〕の【困窮層】が45.0%と、【周辺層】(30.5%)よりも14.5ポイント高くなっている。

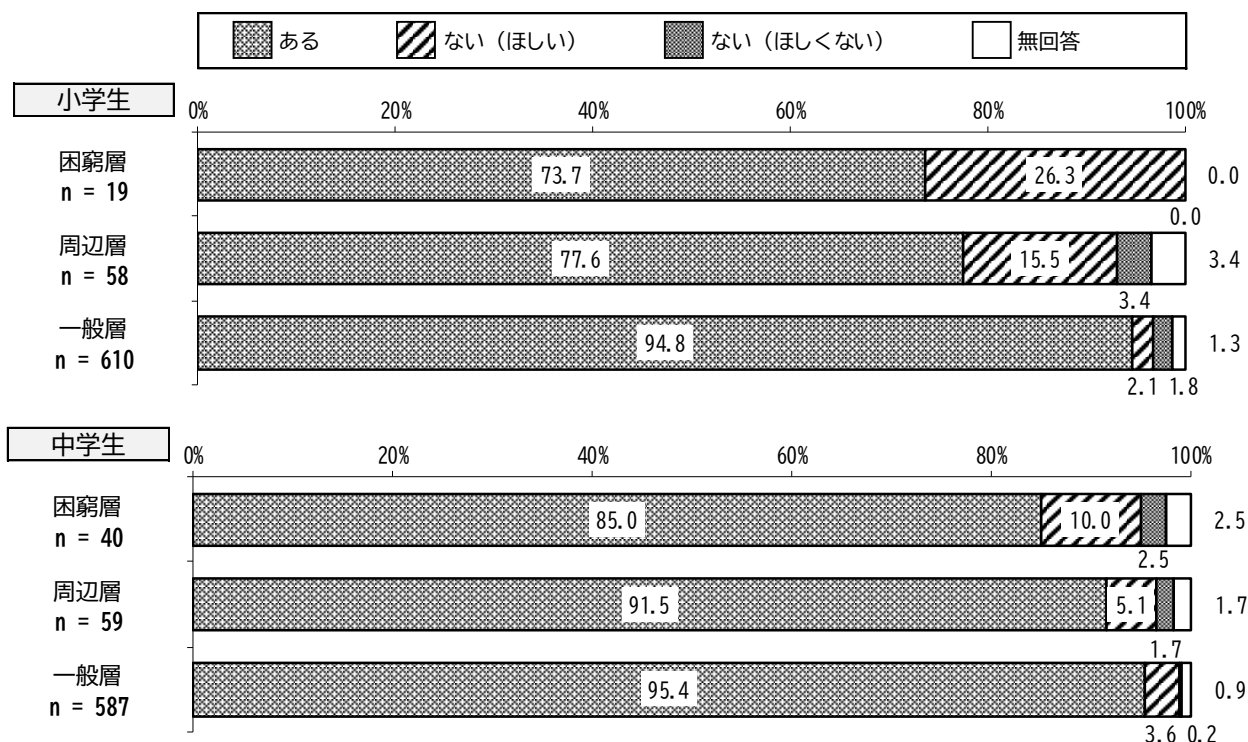
<子ども>授業の理解度【生活困難度別】



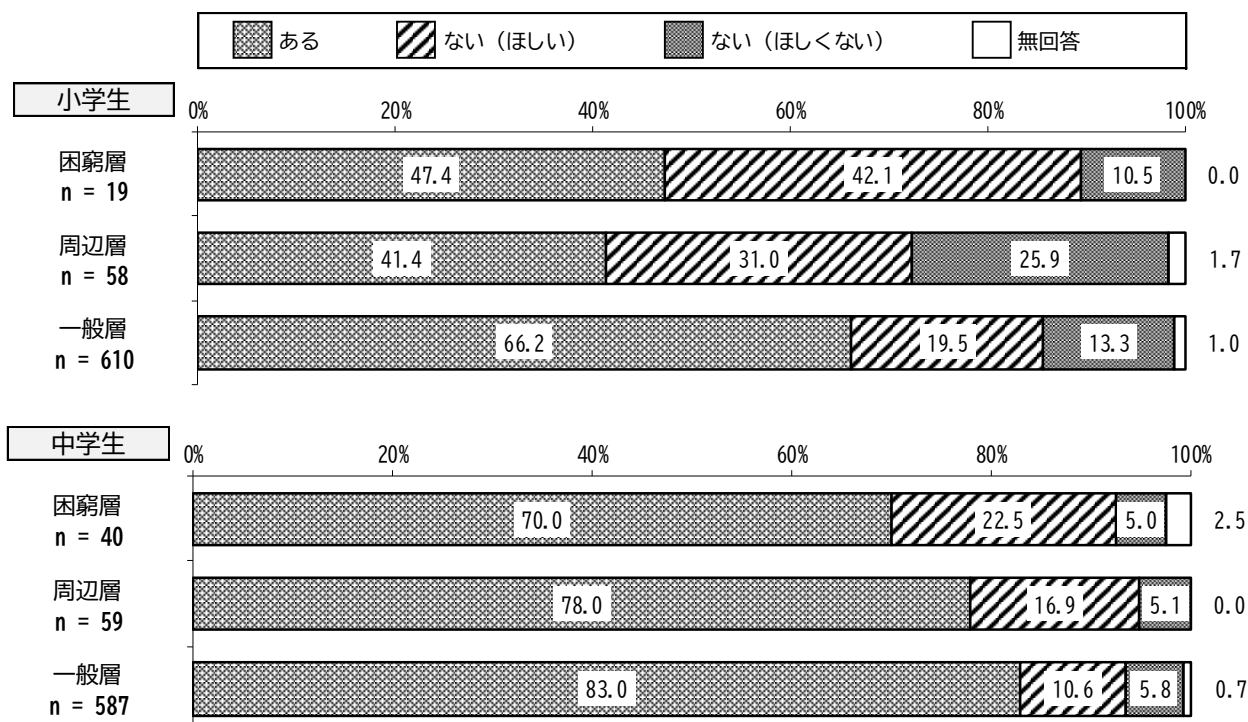
(5) 学習環境の欠如の状況

〔自宅で宿題をすることができる場所〕と〔自分専用の勉強机〕について、生活困難度別にみると、「ない（ほしい）」の割合は小学生・中学生ともに【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔小学生〕の【困窮層】は〔自宅で宿題をすることができる場所〕が26.3%と、【周辺層】（15.5%）よりも10.8ポイント、〔小学生〕の【困窮層】は〔自分専用の勉強机〕が42.1%と、【周辺層】（31.0%）よりも11.1ポイント高くなっている。

＜子ども＞学習環境の欠如〔自宅で宿題をすることができる場所〕【生活困難度別】



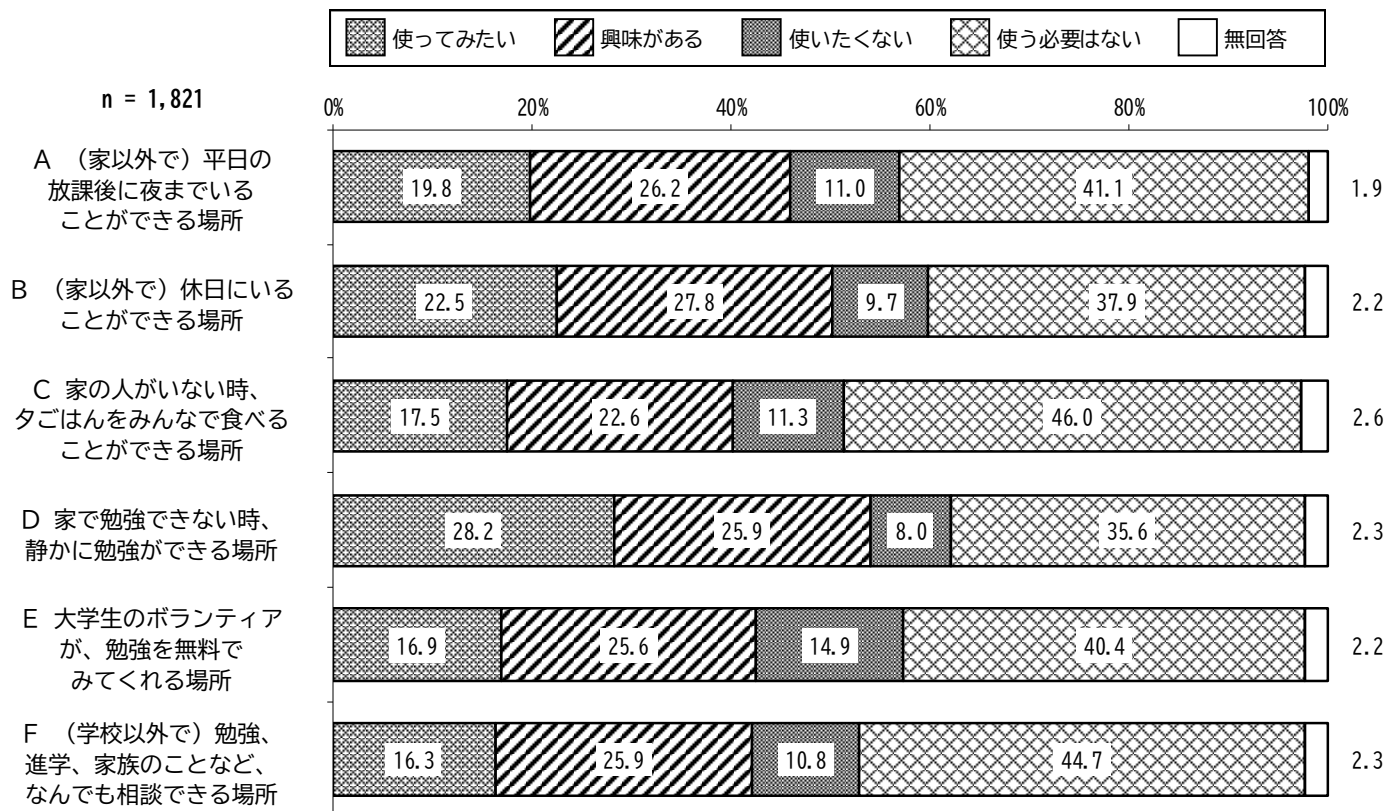
＜子ども＞学習環境の欠如〔自分専用の勉強机〕【生活困難度別】



(6) 使ってみたい場所

子ども全体で「使ってみたい」は〔D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所〕が28.2%、〔B（家以外で）休日にいることができる場所〕が22.5%となっている。また、いずれの項目も「興味がある」が22～28%となっている。

<子ども全体>使ってみたい場所



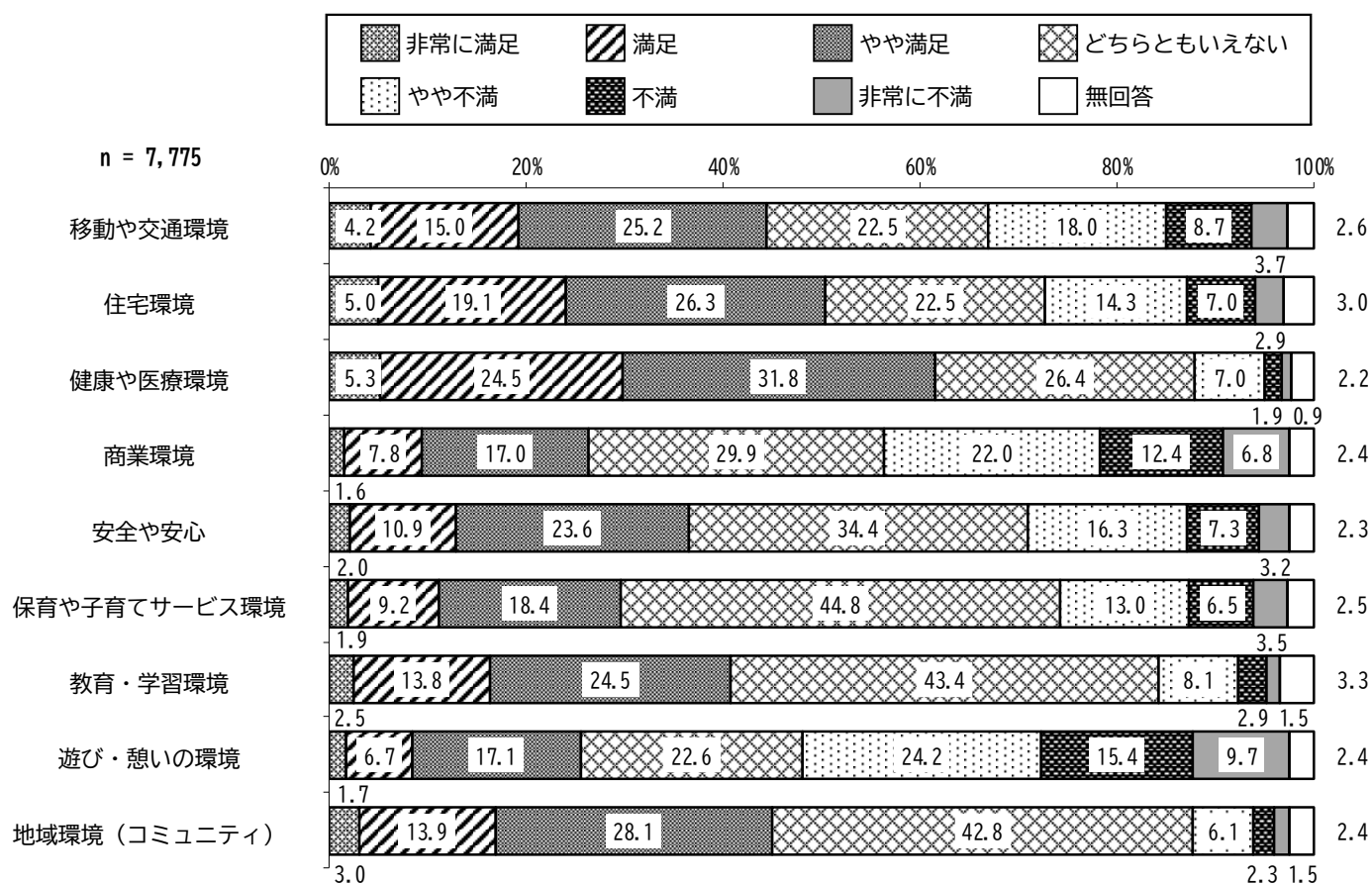
3. 中野区の環境について

※「非常に（とても）満足」と「満足」と「やや満足」を合わせた値を『満足層』、
「非常に（とても）不満」と「不満」と「やや不満」を合わせた値を『不満層』と表記する。

（１）保護者から見た中野区の環境について

保護者から見た中野区の環境（９テーマ、５７項目）について、《総合的な満足度》のみを比べると、全体で『満足層』は、[健康や医療環境について] が61.6%で最も高く、次いで[住宅環境について] が50.4%、[地域環境（コミュニティ）について] が45.0%、[移動や交通環境について] が44.4%となっている。一方、『不満層』は、[遊び・憩いの環境について] が49.3%で最も高く、次いで[商業環境について] が41.2%となっている。

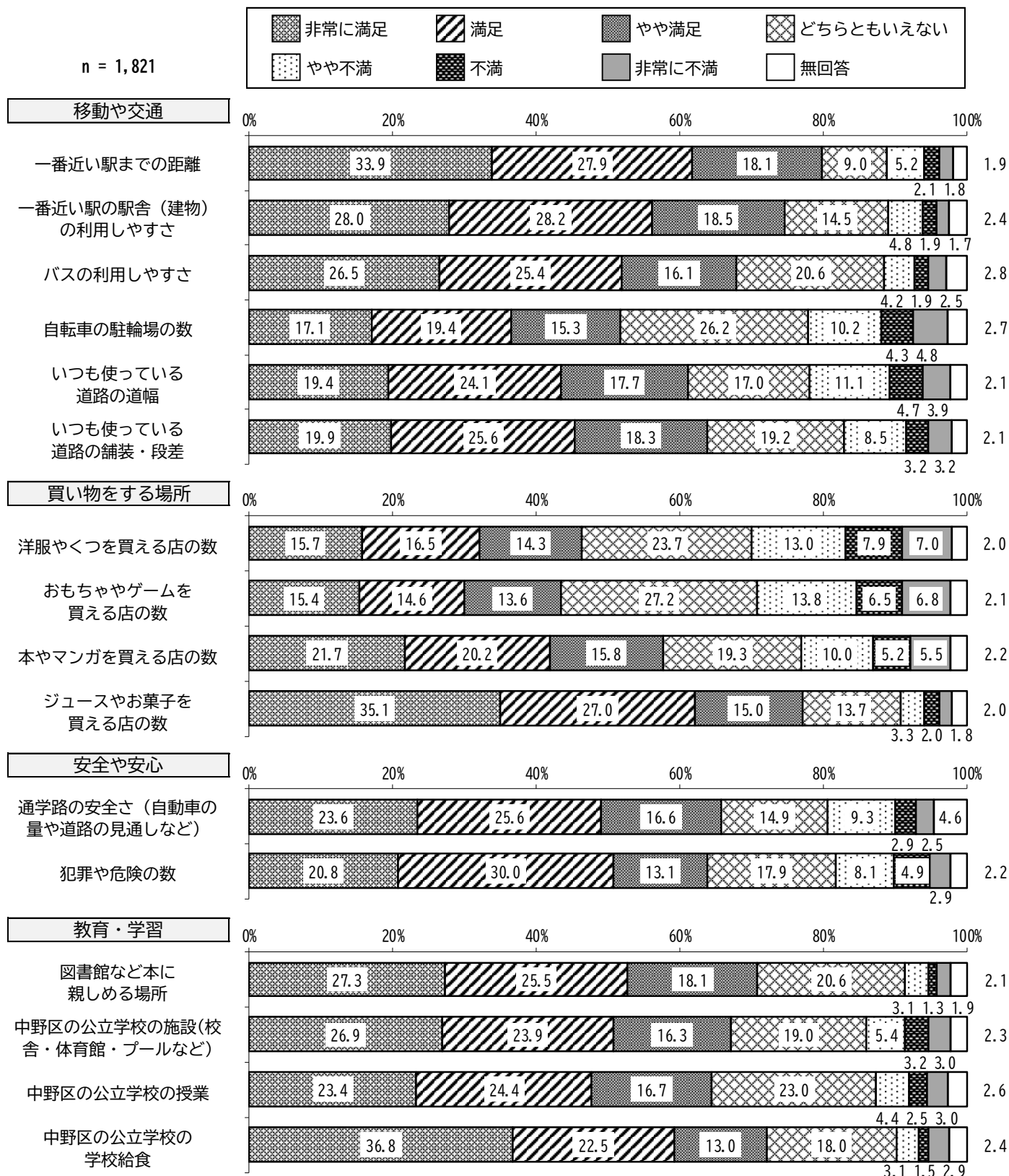
<保護者全体>保護者から見た中野区の環境 《総合的な満足度》のみ



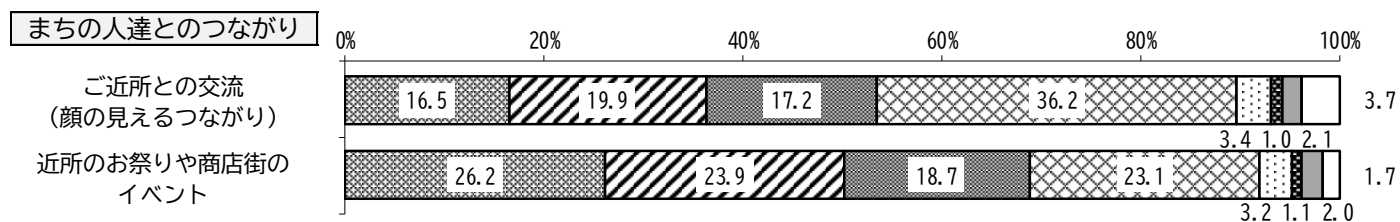
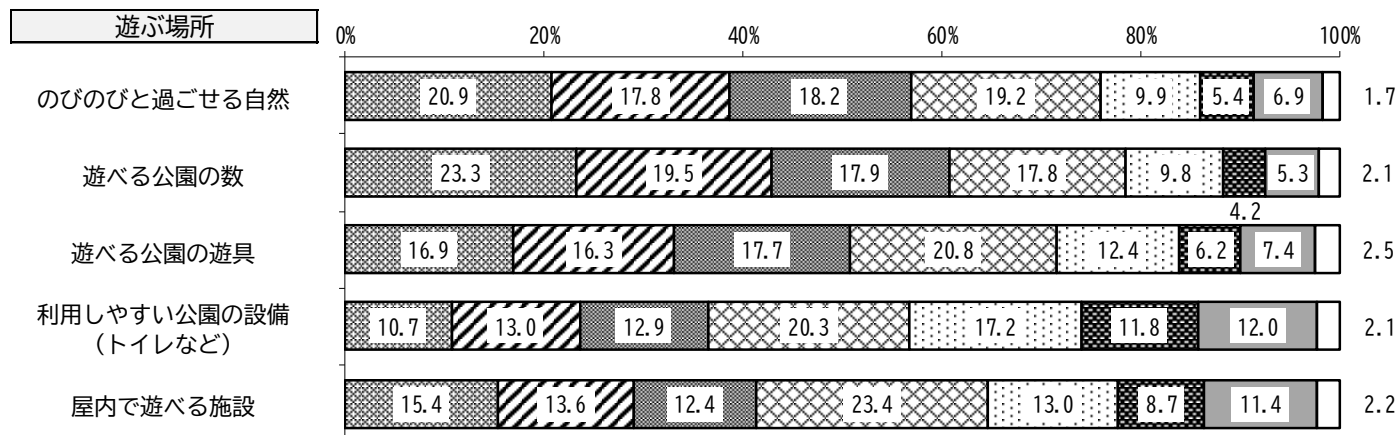
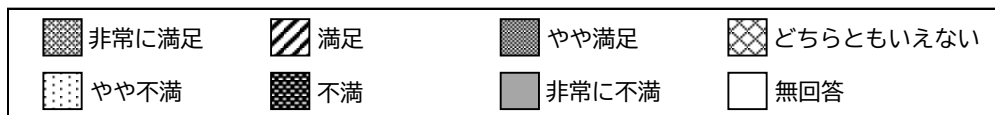
(2) 子どもから見た中野区的环境について

子どもから見た中野区的环境（6テーマ、23項目）について、子ども全体で『満足層』は、[一番近い駅までの距離]が79.9%で最も高く、次いで[ジュースやお菓子を買える店の数]が77.1%、[一番近い駅の駅舎（建物）の利用しやすさ]が74.7%、[中野区の公立学校の学校給食]が72.3%、[図書館など本に親しめる場所]が70.9%となっている。一方、『不満層』は、[利用しやすい公園の設備（トイレなど）]が41.0%で最も高く、次いで[屋内で遊べる施設]が33.1%となっている。

<子ども全体>子どもから見た中野区的环境



n = 1,821



(3) 中野区への定住意向

※「ぜひ住みたい」と「できるなら住みたい」を合わせた値を『住みたい』、同様に、「ずっと住みたい」と「できるなら住みたい」を合わせた値を『住みたい』と表記する。

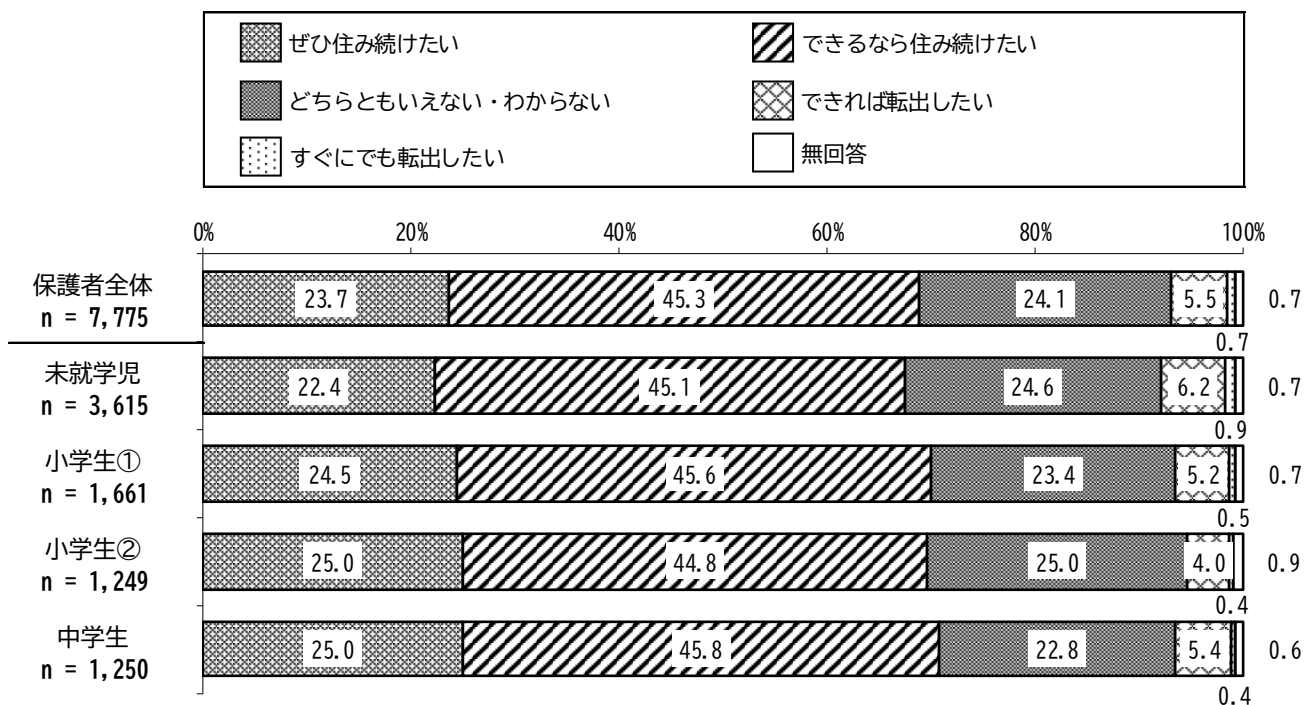
保護者全体では『住みたい』が69.0%となっている。

子どもの年齢層による大きな差はみられない。

子ども全体では『住みたい』が62.1%となっている。

小学生、中学生別にみると、『住みたい』は【小学生】が67.1%と、【中学生】(57.3%)に比べ、9.8ポイント高くなっている。

<保護者> 中野区への定住意向【子どもの年齢層別】



<子ども> 中野区への定住意向

